

二つの供養のかたち

はか 墓じまいという選択



墓じまいへの誤解

近年「墓じまい」という言葉がよく聞かれるようになりまして。この言葉を聞いて、皆さまはどう思われるでしょうか。

自分の先祖様の面倒も見られないなんて情けない・なんとか主守（しゅもり）Ⅱ先祖様やお墓を守ることに出来ないの？

このように思う方もいらっしゃると思います。でも果たしてその通り！と言えるでしょうか？

ここには「墓じまい」に対する誤解があります。

墓じまいは 役目を果たした証

あかし

「墓じまい」を選択する方は、とても悩まれます。上段にあるような考えがあるからです。でも主守がいらない墓地やご先祖様は、いずれ荒れ果ててしまう。お墓の形だけ残していれば・・・と思うかもしれませんが、せんが、供養されなければ、これは粗末になります。そこで自分たちが元気なうちに、今後の供養の形をしっかりとしよう！

これが「墓じまい」です。供養が行き届かずにお墓を放置してしまうより、「墓

じまい」は、先祖供養を引き継いだ者のお役目を果たすことになります。

お寺に供養を 引き継いでもらう

では、「墓じまい」をするということはどういうことかというところ、お寺に供養を引き継いでもらう、ということですが、お寺ではお墓に納められていたご先祖様を「永代（えいたい）過去帳」に書き留め、後世に伝えるとともに、末代まで供養をいたします。

これが、永代供養です。

二つの供養のかたち

永代供養は二種類から選ぶことができます。

①個別にお骨を祀る供養
本堂内にある『法和殿』

に一霊ごとに お骨を納めて 安置する永代 供養です。



②合祀納骨で供養

境内の合祀納骨堂『慈恩堂』での永代供養です。いずれも、費用面を含めてご事情に合わせてご相談いただけます。



これまで紹介したケースに限らず、

☆ 自分の代までしかわからないお墓を預かっている。

☆ 誰のお墓かわからないが受け継いでいる石塔が多くて管理が大変・

など、お困りのケースはいろいろあると思います。

時間のある時にお気軽に ご相談ください。